

新たな役割を担う「内港地区」

名港トリトン・伊勢湾岸自動車道



名港トリトン

入港船を迎える赤白青の港のシンボル

名港トリトンは、港中央を横切る伊勢湾岸自動車道に架かる三つの橋の愛称です。西から名港西大橋、名港中央大橋、名港東大橋と連なっています。阪神大震災級の大きな揺れや、伊勢湾台風級の強い風にも耐えられる高い安全性も備えています。

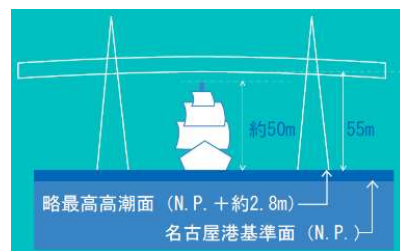
周囲の景観に配慮した斜張橋で、赤、白、青の印象的なデザインから、港のシンボルの一つとなっています。名港中央大橋は季節ごとに異なる色で夜間にライトアップを行っています。

名前の由来

当時の日本道路公団が一般公募により決定。トリトンの“トリ”は、3 を意味する接頭語です。また、ギリシャ神話の海神ポセイドンの息子もトリトンという名前。その姿は半身半魚で、嵐で難破した船に飛んできて、三叉槍を振りかざし、波を鎮めた海の王子と言われています。

高さは大型帆船の通航に配慮

毎年名古屋港に寄港して人々を魅了する世界最大級の帆船「日本丸」と「海王丸」のメインマストの高さは約 50m。入出港時に通過する中央大橋は、桁下から水面までが 55m であり、52.5m までの高さの船は通航できます。



伊勢湾岸自動車道

東西の幹線高速道路と直結し利便性が飛躍的に向上

名港トリトンが結ぶ伊勢湾岸自動車道は、四日市ジャンクション（以下 JCT）と豊田東 JCT との間約 60 km を結ぶ自動車専用道路です。名古屋港内には、東海インターチェンジ（以下 IC）、名港潮見 IC、名港中央 IC、飛島 IC が配置されています。新名神高速道路の一部となるこの道路は、東名阪自動車道、東名高速道路、東海環状自動車道、名古屋第二環状自動車道、名古屋高速 4 号東海線、新東名高速道路と結ばれています。これらの開通により東西物流のアクセスが飛躍的に向上しました。

名古屋港内における伊勢湾岸自動車道の沿革

昭和 60 年 (1985)	3 月	西大橋（金城ふ頭と飛島ふ頭との間）が暫定 2 車線で開通
平成 10 年 (1998)	3 月	飛島 IC と名古屋南 IC との間が開通。名港トリトン開通
平成 12 年 (2000)	3 月	飛島 IC と湾岸弥富 IC との間が開通。新宝ふ頭と西部地区とが結ばれる
平成 15 年 (2003)	3 月	四日市 JCT とみえ川越 IC との間が開通。東名阪自動車道に直結
平成 16 年 (2004)	12 月	豊田南 IC と豊田 JCT との間が開通。東名高速道路に直結
平成 17 年 (2005)	3 月	豊田 JCT と豊田東 JCT との間が開通。東海環状自動車道に直結
平成 23 年 (2011)	3 月	名古屋第二環状自動車道（名二環）に直結
平成 23 年 (2011)	11 月	名古屋高速 4 号東海線に直結
平成 28 年 (2016)	2 月	豊田東 JCT と浜松いなさ JCT との間が開通。新東名高速道路に直結
	8 月	四日市 JCT で新名神高速道路と接続
令和 3 年 (2021)	5 月	飛島 JCT で名古屋第二環状自動車道（名二環）と接続